

### 3. 学会ハイライト

#### イ 講演会

大会第1日目は、北大農学部を会場にして一般講演が行なわれ、草地に関する諸問題について65課題の研究発表があつた。参会者は約450名に達し、3会場に分れてそれぞれ活潑な討議が展開された。

大会第2日目は会場を北大クラーク会館に移して、特別講演およびシンポジウムが行なわれた。出席者300余名で盛会であつた。

午前は、特別講演として、町村敬貴(町村牧場)、大原久友(帯広畜大)、ボンマー(西ドイツ草地研究所)、クリュガー(ギーゼン大教授)の4氏の講演があつた。特に町村氏の「北海道における酪農100年の歩み」、大原氏の「北海道における草地研究の歩み」は、おりからの開道100年、札幌開基100年記念行事にぴつたりのものであり、我々北海道2世紀の始めに位する草地関係の研究にたずさわる者への教訓に満ちた講演であつた。ボンマー、クリュガー氏の講演は外国語であり、あらかじめ要旨は配られていたとは言え、通訳をつけなかつたのは少々手落ちではなかつたかと思う。

午後は土井健治郎氏他4氏の問題提供によるシンポジウムが行なわれた。先ず5氏の講演が行なわれ、後、あらかじめ配られてあつた質問用紙へ質問点を記入し、座長が整理して討論を行なう形式がとられた。座長が要領よく進めたため、活潑な討論が交されたがスムーズに会が進み5時少々過ぎに終了した。

戸外は台風の影響でドシャブリの大雨、会場から車に乗る迄にビシヨヌレになる程の大雨であり遠方から参加された方々には、冷たいプレゼントであつた。

北海道農業試験場草地開発部

佐久間 勉、佐藤 倫造